ている。第一学年地理的分野のオセアニア州では，多文化共生に関する事実認識を獲得する。これは，公民的分野において，日本の労働環境について「雇用形態」や「外国人労働者」に関わる価値を形成する授業で活用することができる。これは一例であるが，今の研究を一歩進めることを意識しながら，実践を重ねていくこととする。

３　美濃地区中学校社会科研究部会　実践の概要

①　地理的分野

⑴ 実践校・授業者

美濃市立美濃中学校　髙橋 勇樹

⑵ 単元名・題材

第３編　第３章 日本の諸地域　４節 中部地方　「持続可能な観光産業」

⑶ 実践の概要（県中社の研究との関連を踏まえて）

指導内容の明確化の観点では，第１時から第４時までは中部地方に関する事実認識を獲得する授業を行い，本時に価値認識を形成する授業として身近な地域である「飛騨地域」の観光業を取り上げ，実践を行った。３年生の公民科との接続を意識した単元計画を行った。

指導方法の明確化の観点では，観光産業にかかわる人の立場ごとに観光業の在り方について考えさせ，その後，グループ同士で意見を交流しあうという方法を行った。二元論にならないように課題を焦点化せず，お互いの意見を聞きながら，留保条件を考えていけるように指導を工夫した。

⑷ 成果と課題

〇身近な地域を取り上げることで，子どもたちが地域の課題について主体的に考えることができた。地理で価値認識を形成する授業をすることで公民科の学習につながる実践ができた。

●地理的な事実認識を根拠にした思考・判断ができていたか疑問が残る。他地域と比較したり，共通性を見つけたりすることが少なかった。

⑸ 来年度の実践の方向

単元だけではなく，地理の学習全体でカリキュラムマネジメントをしていく。どの単元で価値認識を形成する授業を行うか考えていく。指導方法については，子どもの活動の仕方などを改善しながらよい方法を考えていく。

②　歴史的分野

⑴ 実践校・授業者

関市立富野中学校　亀井　悠介

⑵ 単元名・題材

歴史分野　第５章 「開国と近代日本の歩み」　２節　「欧米の進出と日本の開国」

⑶ 実践の概要（県中社の研究との関連を踏まえて）

価値に関する認識を形成する授業モデルを創り上げるためには，確かな事実認識の定着がなければ，成立しない。そのため，事実認識の授業モデルの発展を目指し，関市なりの授業案を検討した。

井伊直弼の政治判断を国内・外国の政治的情勢についての資料追究を行い，多角的に考察する実践を行った。また，授業後段において，井伊直弼の判断は今後の日本のどのような影響を与えたのか，「推論」を取り入れるといった工夫を取り入れてみた。事実認識をもとに，未来への予想をたてる「推論」は，教師側も生徒側も新しい試みであり，様々な学びがあった。

⑷ 成果と課題

〇授業後段に「推論」を取り入れたことで，歴史を自分の中で整理し，主体的に学習に取り組もうとする生徒が多く見られた。また，今後起きる出来事や社会の変化を多面的に考察する姿も見られた。

●資料追究からの未来予測「推論」の発問には，生徒の思考に大きな変化が生まれる。接続の仕方を考えていく必要がある。また，生徒にどのような力をつけさせたいのか教師側がねらいを明確にしてしなければならない。

⑸ 来年度の実践の方向

１つの単元だけでなく，複数の単元で「推論」を行い，生徒が自然と取り組めるような力を身につけさせていく。また，発問の仕方で生徒の思考が変化する。より良い発問を検討し，「推論」の学びを定着させていきたい。

③　公民的分野

⑴ 実践校・授業者

郡上市立白鳥中学校　伊地田　泰真

⑵ 単元名・題材

第３章　現代の民主政治と社会　第３節　地方自治と私たち　「郡上市の地方自治」

⑶ 実践の概要（県中社の研究との関連を踏まえて）

指導内容の明確化の観点では，第１時から第４時までに，地方自治に関する知識や郡上市における地方自治の事実認識を獲得する授業を行い，本時に価値を形成する授業として，長良川鉄道の存続について議論する実践を行った。

指導方法の明確化の観点では，３人による少人数での交流の合意形成を図るというゴールを設定することで，生徒の発話量を確保し，自分の意見を語ることで価値を明らかにできるような工夫を行った。また，その後，結論が定まっていないグループを抽出し，どの点に納得がいかないのかという点を明らかにし，問題を焦点化する中で全体に価値の本質を問う指導を行った。

⑷ 成果と課題

〇長良川鉄道の存続を話し合うことを通して，自分たちが地方自治にどうかかわっていくかを主体的に考えることができた。この学びにより，主体的な社会の形成者となる力が身に付いた。

●価値認識を形成する本授業における構造的な板書になっていなかった。生徒の思考を板書により整理できるよう視覚化することで，生徒の多角的な捉えを整理し，合意形成に向けた議論の土台としたい。

⑸ 来年度の実践の方向

単元のどの授業でどの知識をつけていくのか，地理や歴史で学んだどの内容がどこにつながっていくのかをより明確にしていく。集団での合意形成をどの集団でどの程度求めていくかを明らかにしていく。

今年度の研究のあゆみ

５月　２日（木）	運営委員会	・組織の確認　・３か年の計画の確認　・年度内の動きの確認
６月14日（金）	第１回研究推進委員会	・県中社の研究内容の共有　・研究の方向の検討
10月 ４日（金）	第２回研究推進委員会	・研究内容の検討
12月 ６日（金）	第３回研究推進委員会	・各市の実践交流

第57回　全国中学校社会科教育研究大会　北海道大会　参加報告書

主務　大野町立大野中学校大野分校　古田　伸二

1　大会名

第57回全国中学校社会科教育研究大会（北海道大会）

2　研究主題

「未来を創る社会科教育」
～よりよい社会を実現する資質・能力を育む社会科～

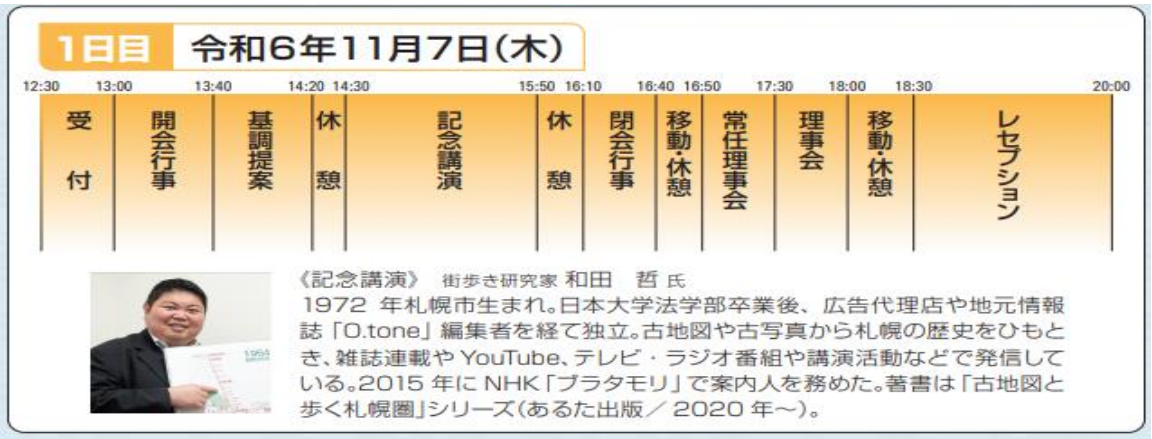
3　期　日

令和6年11月7日（木）・8日（金）

4　会　場

ホテル　ライフォート札幌

5　日　程



6　基調提案

（1）　研究の進め方

全中北海道大会は、大会主題と副主題を「未来を創る社会科教育～よりよい社会を実現への継続性を目指している。る資質・能力を育む社会科学習」として、研究を進めてきた。緊急を進めてきた。各分野の授業開発に力点を置くことと、様々な世代の教員が平易な言葉で研究を語り合うことができるように全体構成をシンプルにして研究を進めている。そのため、理論の理解も含めて研究を練り上げていくという効率性と、教材研究の日常的な取組への継続性を目指しているからである。下記のように研究を進めている。

（2）　大会の主題・育てたい生徒像

常に変わり続ける世界に向き合い、よりよい社会を描き、形成していけるために必要な資質・能力を、主体的・興津的に学ぶことを通して身に付け、鍛えていける生徒

北海道大会の論として、「よりよい社会」とは個々の思い描く別々の都合のよい社会ではなく、人々が幸福を実現できる基盤となる、「多くの人々にとってよりよいと感じられ、将来にわたって持続可能である社会」と考えている。

（3） よりよい社会を実現する力（資質・能力）

・知識を予測不能な未知の状況でも活用できる力
・物事を複数の立場や考え方で広い視野から捉え、具体的な事実を根拠にして考えられる力
・社会的事象を自分のこととして捉え、具体的な事実を根拠にして考えられる力　・社会的事象の課題や解決を考えたり未来を発展的に考えたりできる力
・共感的理解をもちつつ、客観的に価値判断できる力

この5つの資質・能力を構成する要素として、以下の6点を重視している。

①具体的な知識と概念的な知識

知識を，社会的事象に関わる具体的な知識と学習を通して導き出される概念的な知識に大分している。概念の導き方や個別の知識同士をつなぐことによって，課題解決に向かう活用なものとする。

②多面的・多角的な思考・判断

社会的な見方・考え方に直結するものとして、社会的事象に関わる人々の立場や立場の質（立場性）に着目し、物事の多様な側面を捉え価値判断や最適解を導いていくものとする。

③当事者意識の醸成

社会的事象に関わる問題を、自分自身の問題として捉えて主体的に課題解決に向けたり、価値判断したりするものとする。

④具体的な事実を根拠・論拠とする思考・判断

課題解決に向けて、思考・判断の根拠・論拠となる具体的な事実を適切に見出し、的確に表現していく。

⑤発展的な思考

学習を通して、思考・判断してきたことについて、結論として完結するだけでなく、自分自身の思考・判断の内容をその後の学習に応用・転化や再構成するものとする。

⑥共感的な理解と批判的思考

学習の題材となる社会的事象を見つめる際に、事象に関わる人々の営みに共感することにより、事象のもつ因果関係や心理的側面を読み取る。そこから事象に対して批判的思考を働かせていくことで、事象のもつ多様な側面を捉え、価値判断や最適解を導いていくものとする。

（4） 目指す授業像

①生徒が、自ら学びを振り返り、身につけた知識・技能等を生かし、見通しをもって学ぶなど、学びを自己調整していく力を身に付けていく授業

・生徒が学びを自己調整していく力を身に付けていく3つの段階

→自己調整学習の理論では、「見通す」「実行する」（没頭的要素）「振り返る」（俯瞰的要素）

「見通す」：単元を貫く学習問題を解決していくプロセスを見通し、協働的に組み立てていく。

「実行する」：個での問題解決と集団での問題解決を活動の中で明確にし、一人ひとりが自分の手で学習を進めていることを実感できるようにする。

「振り返る」：学習の結果や学習のプロセスを振り返り、成果と課題を評価するとともに、学習の改善や実生活につながることは何かを考えていく。

・学習を振り返るための視点

下記の表を基に、生徒が学習の結果と学習のプロセスを単元のまとまりごとに振り返る場面を位置付け、学びを自己調整できるようにしている。

②社会的事象に主体的に向き合い、様々な立場をもとにして社会的な見方・考え方を働かせ、課題解決に向かう授業

よりよい社会を実現する資質・能力を育むためには、生徒が主体的に課題解決に向かう学習、いわゆる「課題解決的な学習」が重要である。その学習には、下記の５つの段階を大切にしている。

課題の把握、課題解決の構想，課題の追究、課題の解決、学習の総括

特に，岐中社の研究に関わって下記に記載する。

【課題の追究と課題の解決】

個人での思考や他者との話合いなどを通して、社会科が特に重視する事象の社会的価値を構成する多面性と多角性の深い理解を進め、学習問題の解決を進めている。

他者との思考の関わりなどを通して、根拠・論拠のある結論として導いた、最適解もしくは納得解となっていることを重視した授業展開を行う。

③対話や議論などの異を交わし合う協働的な活動場面を通して、思考の質を高めていく授業

思考の質を高めるためには、自身が思考・表現したことを、対話や議論などを行うことによって、再検証する活動が必要である。情報の信頼性や、具体的な事実を根拠にした考えとなっているかなどを検証しつつ、個人や集団の思考を練り上げていく場面である。様々な視点や立場に自分の思考を置くことで、思考が揺さぶられ、内容が整理され、洗練されていく。複数の結論について有効性、妥当性、問題点、実現可能性等の視点から検証し、合意形成を図る場面を大切にしていく。

（5） 目指す授業像の実現に向けて必要な手立て

①生徒自らの問題意識をもとにした探求的な学びを、効果的に進めるための知識や技能等の整理と構造化の工夫

目指す授業像の実現のためには、生徒自らの問題意識をもとに単元の学習を進めていくことが必要になる。生徒の現状を踏まえつつ、身に付けるべき資質・能力や知識や技能等の習得が進むよう、学習内容を精選し、配列していく。

単元内では、「抽象と具体」「順序」「系統」「側面や立場」などの視点を，分野や単元に組み合わせて織り混ぜながら、整理、構造化を行っている。

②生徒にとって、学ぶことと自分自身とのつながりを実感できる切実性・必要性のある題材の精選と教材化の工夫

まず、生徒が住む地域や環境での生活体験、生徒個人や集団の特性などを把握することが必要である。そして、把握した実態をもとに、生徒が、題材と自分自身とのつながりや、題材の学習を通して、社会と自分たちとのつながりを見出すことができるよう学習内容を考えることが重要である。

③生徒個々の知識や思考が生き、理解の深まりや思考の質の高まりにつながる協働性のある学習活動と学習形態の工夫

生徒によりよい社会を実現する力を育むためには、生徒が理解の深まりや思考の質の高まりを実感できる場面を設定することが重要である。そのためには、生徒個々の知識や思考が生き、協働性のある学習活動や学習形態を工夫していくことが重要である。特に、学習活動開始前に「何を」「なぜ」「何を根拠に」考えるかを生徒と共有していることが、「学ぶことと、自分自身のつながり」を実感するために重要であり、そのためにも単元、本時ともに学習問題の文言と学習問題を共有するまでの生徒の思考の流れや資料提示等の手順を整理しておく必要がある。

【生徒個々の知識や思考を生かす学習活動や学習形態の工夫の例】

・選択肢や話型を提示するなど、生徒が思考の内容を表出しやすくする。
・意見の程度を可視化するなど、思考の状態をわかりやすくする。

【協働性のある学習活動や学習形態の工夫の例】

・ある問題を解決に関して、小集団ごとに立場や側面を割り当てた探究活動を進める。
・同じ（違う）意見や立場の小集団で探求活動を進めたり、意見を交流したりする。
・思考ツールを活用して、小集団や学級全体の思考の流れや位置付けを分かりやすくする。

上記のように，教師の関わりが非常に重要である。教師がどのような言葉をかけていくのか、学習活動や学習形態を吟味する際考慮し、指導に位置付ける必要がある。

岐中社　　研究報告

第57回　全国中学校社会科教育研究大会
北海道大会　研究総括

授業研究委員長　稲垣直斗

1 北海道大会の研究について

【大会主題】

「未来を創る社会科教育」～よりよい社会を実現する資質・能力を育む社会科学習～

「育てたい生徒像」を思い描き、その具現化を図るために必要な資質・能力を明確にすることを研究の根幹に、「目指す授業像の実現に必要な手立て」を各分野で取り組んでいる。詳しい授業については各分野の報告を参照。

ここでは「目指す授業像の実現に必要な手立て」について、「対話や議論を充実させるための工夫」について述べる。小集団での話合いや、立場ごと、同じ意見や違う意見など、多様な学習形態によって学習活動を行うことで、対話や議論を充実させるための手立てを講じていた。また、その際に思考ツールを活用することで、小集団や学級の思考の流れや位置付けを分かりやすくする手立てを講じていた。どの分野、どの授業公開においても、これらの手立てを講ずることで、研究主題に迫る授業を実践していた。また、教材について、歴史分野における開拓の歴史や、地理的分野における北海道地方の実践など、綿密な教材研究と育みたい資質・能力を意識した授業実践が行われていた。

2 研究主題に応じた授業考察

①追究視点の明確化

1に示したように、どの授業においても小集団学習や思考ツールの活用など、生徒が主体的に課題に向き合う姿が見られた。しかし、一方で、展開場面における生徒の認識の深まりをあまり感じとることはできなかった。岐中社がこれまで大切にしてきたことをもとに、「社会的な見方・考え方を働かせた考察」や「認識を深める場における手立て」を講じることによって、追究の視点を明確にし、焦点化したり、比較・関連させることを教師が意識して指導すれば、生徒同士の交流がさらに活発になると考えられる。

②必然性のある課題、必然性のある活動

札幌に暮らす生徒にとって、開拓や北海道地方の学習は身近な教材である。しかし、教材の魅力だけではなく、教師が意図的、計画的に単元や本時を構成し、指導する必要がある。本時、獲得する事実認識は何か、獲得した事実認識をもとに形成する価値認識とは何か。これらを明確にし、交流の場面において、「どこから考えたのか、何を大切にしたのか」等、問い返せば、北海道大会における実戦においても岐中社が追究している価値形成の授業につながると考えられる。

3 これからの岐中社の研究に関わって

視点を明確にした事実認識や話し合う必然性のある課題（生徒にとって切実感のある問題）、ICTや思考ツールを用いた判断基準などの視覚化、単元、一単位時間でこそ掴ませたい価値の明確化など、北海道大会で学び、考えたことをもとに岐中社の論と授業をより確かなものとして実践を積み重ねたい。

岐中社　研究報告

第５７回　全国中学校社会科研究大会
北海道大会　地理的分野

地理的分野長　長堀　真人

１　授業概要

学年	中学２年生	中学２年生
単元名	第３部　日本のさまざまな地域 第４部　地域の在り方	第３部　日本のさまざまな地域 ⑶　日本の諸地域　北海道地方
本時のねらい	札幌市のまちづくりについて、防災と経済発展の両面から考察を通して、札幌市のあるべき姿を地域の一員として主体的に追究し、表現することができる。	北海道が日本の課題解決に期待されていることやその根拠について考察し、地域的特色への理解を深める。
授業概要	導入：札幌市の地域的特色や課題を、防災上の影響について整理する。 課題：「災害に強いまちづくり」と「経済発展を目指すまちづくり」を共に実現するにはどうすべきか。 展開：双方の視点について話し合う。 まとめ：優先事項をグループで合意する。 取組を再評価し、札幌市の将来についてまとめる。	導入：テーマごとに調べたことを振り返る。 課題：どのような内容をプレゼンに盛り込むことが効果的なのか。 展開：グループで調べたことを共有し、プレゼン内容を決めるため議論、修正、確認をする。 ⑴「他では代替できない北海道の価値」とは？ ⑵2050 年に向けて、解決すべき課題は？ まとめ：分かったことと自分の学びを振り返る。

２　授業考察

①価値に関する認識を形成するための根拠の重要性

生徒が自分の意見を発言する際、既習内容や生活経験を根拠に話す生徒が多かった。根拠が明確な発言は、周りの生徒の理解もし易く、その後の価値に関する認識の形成にも効果的であった。根拠が明確でない発言は、課題追究や価値に関する認識の形成に繋がりにくい。価値に関する認識を形成ためには、事実に関する認識や知識の獲得が大切であると感じた。

②判断基準と追究視点の明確化

認識を深める場において、どちらの授業もマトリクスで自分の考えをまとめる活動が位置づけられていた。それぞれの軸には、何をもって判断するのか（判断基準）が明記されており、それに沿って判断しようと試みられていた。また、何について話し合っているのか（追究視点）も設定されているため、生徒が効果的に話し合い、考えを深めていた。「何を話しているのか」、「何をもって判断するのか」を明確にし、指導にいかしていくことが、価値に関する認識を形成する授業を行うために大切であると感じた。

３　これからの岐中社の研究に関わって

今回北海道大会を視察して、「価値に関する認識を形成する授業」が全国的に行われていることが再認識できた。しかし、認識を形成するための生徒の足場となる知識や事実に関する認識が重要であるということも実感できた。事実に関する認識を獲得する授業の実践の充実を進め、そこで得た知識や事実に関する認識を用いて、価値に関する認識を形成する授業の実践を進めて行くことが大切である。

第５７回　全国中学校社会科教育研究大会
北海道大会　歴史的分野

歴史的分野長　本間祐一

１　授業概要

・学年　　：中学１年生
・単元名　　：武家政権の成長と東アジア　武家政権の内と外
・本時のねらい：中国との対外関係が日本に与えた影響について、国内の様子と時期の推移から考察し、外国との良好な関係を築くことが重要であることを理解することができる。
・導入　：前時までにまとめた平安・鎌倉・室町のそれぞれの時代における、中国による国内への影響（外交・交易）【縦】について、様々な立場を踏まえ正負の点から判断し、グループ毎に発表する。
・課題　：「当時の中国との対外関係は、日本にどのような影響を与えたのだろうか」
・展開　：平安・鎌倉・室町の各時代の日本と中国の外交・交易の共通点【横】について小集団で考え、概念的知識の獲得につなげる。
・まとめ：単元の課題と関連付けてまとめる。

２　授業考察

①時代の推移に着目できるようにする

平安・鎌倉・室町の各時代の、中国との関わり（外交と交易）を、「敵対」「依存」「協力」「支配」の４つの視点から選択し、時代の推移による変化を捉えようにしていた。視点を設定したことにより、生徒たちが中国との関係性に着目し、外交と交易それぞれの側面で変化の有無をつかむことができた。

共通点を捉える発問【横】の際、交易については、「協力」している点で「変化がなく、お互い補っていた（板書の言葉）」と、共通点を捉えることができていた。しかし、外交については時代によって変化があることに気付けたものの、「なぜ、時代毎に変化があったのか」という変化の背景を問う発問に対しては、発言が止まってしまっていた。既習の各時代の為政者の政権運営に着目させるなど、立場を示して考えさせるなどの手立てが必要だったかもしれないが、外交の側面から中世の時代の変化に着目させるという点で非常に面白い授業展開であった。岐中社で大切にしている、時代相をつかませるという点で、参考になる点が多い授業であった。

②「現在の〇〇についてどう考えるか」と生徒の選択・判断を促す

授業のまとめでは、「この時代は中国に大きく依存しており、良くも悪くも影響を受けていた」ことについて生徒が振り返った後、教師から「今の時代の日本は中国に対して、どのように対応すべきか」と問いを行った。時間配分上、発問するだけになってしまったが、どのように判断するかのといった経験を少しずつ積ませていくことは有効であると感じた。（ただし、安易に問いを乱発すべきではないとも言える）

３　これからの岐中社の研究に関わって

北海道大会では「客観的に価値判断できる力」を一つの主張としていた。上記の授業のように、日本の立場や中国の立場から、貿易・交易それぞれの価値を認識するというものであるが、選択・判断の前に、既習の知識や概念をきちんと積み上げることが大切であると感じた。岐中社として、まさに今年度の研究・実践を進めてきた点である。今後も、県内の先生方で一丸となって研究・実践を進めていきたい。

第57回　全国中学校社会科教育研究大会

北海道大会　公民的分野　振り返り

公民的分野専門委員長　岐阜市立長森中学校　前島久恵

１　大会主題

『未来を創る社会科教育』

～よりよい社会を実現する資質・能力を育む社会科学習～

２　北海道の研究提案より

これからの時代は「先行き不透明」「めまぐるしい速度での変化」「VUCA の時代」など、否定的なイメージに向かいがちな表現がされる中、私たちは社会の先人として子どもたちの生きる社会には明るさと暗さがあることを示し社会の一員としてどのように生きていくのかを自ら考えていくための資質・能力を育んでいく責務がある。

よりよい社会を実現する力（資質・能力）特に公民的分野では…

・物事を複数の立場や考え方で広い視野から捉えることができる力
・社会的事象の課題や解決を考えたり、未来を発展的に考えたりできる力
・共感的理解をもちつつ、客観的に価値判断できる力

３　公開授業に関わって

【公開授業Ⅰ】　札幌市立向陵中学校　西澤　英剛　教諭　「地方自治と私たち」

単元を貫く課題を「誰もが暮らしやすい札幌市にするにはどうすればよいのか」とし、本時は「自分たちの提案をよりよいものにするためにはどうすればよいのか」という学習課題のもと、自分たちが考えたまちづくりの提案に対し、札幌市の職員の方からのアドバイスを聞き、新たな問題や視点に気付き、異なる立場や視点などから提案を再構築する授業を見せていただいた。グループごとに作成された提案は、札幌市のまちづくりの３つの概念、「ユニバーサル」「ウェルネス」「スマート」とまちづくりの８つの分野「子ども・若者」「生活・暮らし」「地域」「安全・安心」「経済」「スポーツ・文化」「環境」「都市空間」のもとに、グループごとに分野を選択し、誰もが暮らしやすい札幌市にするために考えられたものである。本時は、学級での交流を経て、実際に札幌市役所の方に来ていただき、各グループの提案に対しアドバイスをもらい、そのアドバイスをもとに、「もっとよりよい」提案にするために各グループで考えを再構築する時間であった。

「もっとよりよい」とは、「誰のために」なのかという目的意識、再構築する上での「視点」が明確になるとよかったと感じた。自分たちが考えた案を、実際の職員の方のアドバイスを聞いて考え直す場合、その目的がはっきりしないと、アドバイス通りになってしまう傾向がある。何をどのように、何のために考え直すのか、そこをはっきりさせることが大切であると感じた公開Ⅰだった。

【公開授業Ⅱ】　札幌市立厚別北中学校　吉岡　和剛　教諭　「現代の民主政治と社会」

単元を貫く課題を「私たちが政治に参加するときに身に付けておいた方がよいことは何か」とし、本時は「私たちが政治に参加する方法の中で、特に重要だと思うものは何か」という学習課題のもと、前時までにまとめた中学生にできる政治参加について、特に自分が重要だと思うものについて議論する授業を見せていただいた。政治参加する方法として、「投票の啓発」「請願・陳情」「演説に行き、意見を言う」「情報公開制度」「子どもの議会に参加する」「募金活動」「マスメディアによる世論づくり」「インターネットによる情報収集や意見表明・交換」の中から選択し、グループ・学級での議論を行った。この授業では、グループでの議論において合意形成をめざした授業であった。ある班では、議論の途中に「変える」と言った生徒に対し、その理由を聞く中で、他の生徒の中にも迷いがうまれ、それぞれが自分の価値を明らかにしながら議論を進めていた。最後に一つにまとめる時には、お互いが折り合いをつけながら一つにまとめている姿があった。ただ、全体を見たとき、班によって論点にばらつきがあり、今を考えている班もあれば、先を見据えている班もあった。やはりここでも、議論にあける「視点」「論点」を明確にすることが必要だと感じた。

４　全国大会から学ぶこと（岐中社の方向に生かすこと）

①視点・論点の明確化

課題に対して議論を進めていく上での視点・論点を明確にすることで、生徒の思考は深まり、価値の形成につながる。授業モデルに沿って、視点・論点をはっきりを示していくことが大切である。

②不易と流行

変化し続ける時代に生きる生徒たちだからこそ、思考の質を高め、検証し、協働的な学びにより、A→A′、B→A、A→Bになることが大切である。

各支部報告

岐阜支部

内田　武志

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
6月：第1回校外研修
　3ブロックに分けて研究授業・授業研究会
8月：第2回校外研修
　岐阜県立図書館～授業での地図の活用～
10月：第3回校外研修
　3ブロックに分けて研究授業・授業研究会

◆本年度のまとめ
「価値に関する認識を形成する授業」に関する提案が増え，価値認識に関する授業が浸透してきた。研究会でも各校の実践をもとに交流することができた。また，単元を通してどのような価値を形成させたいのかを明確にしていくことの重要性を確認することができた。

羽島市支部

浅野　秀文

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
6月：第１回研究会
　授業者：竹鼻中学校　小倉　信　教諭
　3年歴史「二度の世界大戦と日本」
11月：第2回研究会
　授業者：羽島中学校　松名　美咲　教諭
　3年公民「現代の民主政治と社会」

◆本年度のまとめ
単元における単位時間の役割を明確にし，生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら，単元を貫く課題のより深い理解に導く授業展開の工夫を行った。また，「価値に関する認識」の判断をせまる授業により，「主権者」として政治や社会に対し，クリティカルシンキングの視点で考えられる力を身に付けられる授業を実践した。

各務原市支部

笹俣　友杜

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
6月：第1回研究会
　授業者：中央中学校　山路　琴弓　教諭
　２年歴史「江戸幕府の成立と対外関係」
８月：第2回研究会
　航空自衛隊岐阜基地施設見学
11月：第3回研究会
　各務原市公表会発表校、社会科部会に参加

◆本年度のまとめ
目的意識を明確にした小集団交流の設定のために，資料提示の仕方や単元の課題に立ち返らせる発問するなどの工夫について学び合うことができた。

山県市支部

佐野　敦

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
6月：第1回研究会
　授業者：富岡小学校　鳥村　悠登　教諭
　6年歴史「縄文のむらから古墳のくにへ」
10月：第2回研究会
　授業者：高富中学校　石井　颯人　講師
　2年地理「近畿地方」

◆本年度のまとめ
開発した教材（題材）をどのように生徒に提示したり，そこから思考を深めさせたりするとよいかということに焦点をあて，小中合同で研究を進めた。発問や問い返しのタイミングや言葉の精選について積極的に学び合うことができた。

瑞穂市支部

近藤　晃正

◆テーマ

よりよい社会の実現を目指す子が育つ

社会科学習

～子どもが社会とつながる授業を通して～

◆本年度の活動内容

6月：第1回研究会

授業者：南小学校　深谷　涼　教諭

4年「住みよいくらしをつくる」

10月：第2回研究会

授業者：巣南中学校　峰　卓也　教諭

1年歴史「武士の政権の成立」

◆本年度のまとめ

児童・生徒にとって身近な題材や素材を扱うことで，興味・関心を高め，授業に意欲的に取り組むことにつながった。さらに，ICT を活用することで，積極的な学び合いへの参加や，自分の考えを整理し，まとめることにつなげることができた。

本巣・北方支部

宮川　和文

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月：第1回研修

授業者：岐阜大学教育学部付属小中学校

大坪　雅詩教諭

9年歴史「戦後の日本の発展と国際社会」

8月：夏季研修　中社研夏季ゼミオンライン参加

11月：第2回研修（北学園自主発表会）

授業者：北学園　田邉　柾仁教諭

8年地理「中部地方」

◆本年度のまとめ

両学園で児童生徒が深い学びができるための手立ての究明を進めた。児童生徒が学びを深めるための，教材の在り方や学習課題，集団交流での支援の在り方を学び合うことができた。

羽島郡支部

片桐　由裕

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月：第1回研究会

授業者：松枝小学校　坂本　梨沙　教諭

小4年「ごみのしょりと利用」

11 月：第2回研究会

授業者：笠松小学校　前田　大輝　教諭

小5年「自動車をつくる工業」

◆本年度のまとめ

小中合同で研究を進めたことで，小中が連携して教育活動を行うことの意義について考えることができた。また，単元における単位時間の役割を明確にして授業を展開することの重要性を学び合うことができた。

大垣市支部

黒川　真一

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月：第1回研究会

授業者：大垣市江並中学校　安田　和司教諭

3年歴史「第二次世界大戦と日本」

10月：第2回研究会

授業者：大垣市北中学校　　村田　一朗教諭

2年歴史「開国と近代日本の歩み」

◆本年度のまとめ

岐中社の研究主題を踏襲し、研究を行った。「価値に関する認識を形成する授業モデル」の要素を取り入れた授業を検討し、内容の取り扱い方の工夫や、単元指導計画での「事実に関する認識」の定着、授業展開の工夫についてどうあるべきかを学び合うことができた。また、歴史的分野・地理的分野での実践を3年次の公民的分野にどのように繋げていくかを考えていきたい。

海津市支部

矢神　龍輝

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を
育てる社会科学習

◆本年度の活動内容
6 月：第 1 回研究会
授業者：城南中学校　岩田　拓巳　教諭
3 年生公民「現代社会の特色と私たち」
10 月：第 2 回研究会
授業者：城山小学校　髙木　和子　教諭
3 年生社会「店ではたらく人」

◆本年度のまとめ
学習課題，深めの発問を自分事として捉えられる授業を行うために，自分の身の回りの事象に立ち返る課題づくりについて学び合った。
今年度から研究会を小中合同で開催し，互いの授業を参観し合う中で，小中の連続性や系統性を意識した研究会を行うことができた。

養老郡支部

柳瀬　陽一

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
4月：第1回教科研究会　研究組織・内容の検討
6月：第2回教科研究会
授業者：日吉小学校　二ノ宮　有人　教諭
5年「あたたかい土地のくらし」
11月：第3回教科研究会
授業者：東部中学校　髙木　実紗希　教諭
3年公民「国の政治の仕組み」

◆本年度のまとめ
自分の立場を可視化したり，論点を示したりしたことで，話し合いに積極的に参加する姿が見られた。生徒自身に学び方を考えさせたりすることで，交流の必然性を生み出し，主体的な活動をさらに大切にする授業づくりをしていく。

不破郡支部

伊藤　拓翔

◆テーマ
よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習～「不破の子」が社会とつながる授業を通して～

◆本年度の活動内容
6月：第3回研究会
授業者：不破中学校　小渡　宇翔　教諭
2年地理「九州地方―沖縄の経済発展と環境保全の両立を考える―」
11月：第5回研究会
講座：「主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習」にするためには，どうしたらよいか。

◆本年度のまとめ
単元や単位時間の指導を通して，主体的に社会の形成に参画する力を育てることに焦点をあて，研究を進めた。目標―指導―評価の一体化を図ることや，前時の振り返りから，前のまとめと相反する資料を提示し，疑問を生み出すなど，授業構成を考え，児童・生徒の学ぶ意欲に繋げることの大切さを学び合えた。

安八郡支部

若原　崇史

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
5月：研究テーマ、組織、年間計画の検討
6月：第1回研究会
授業者：東安中学校　片山　咲希　教諭
1年地理「世界各地の人々の生活と環境」
11月：第2回研究会
授業者：結小学校　丸岡　裕　教諭
3年社会「火事からくらしを守る」

◆本年度のまとめ
「生徒の思考を深める評価・援助のあり方」を重点に研究を進めた。単元を通して同じワークシートにまとめを書かせることで、その記述をもとにグループで交流し、単元全体の学習内容をまとめることができた。

揖斐郡支部

國枝　絹太郎

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科指導

◆本年度の活動内容

4月：研究テーマ，組織，年間計画の検討

6月：第1回研究会

第2回研究会に向けた研究方法についての討議

講義「個別最適な学びと協働的な学びについて」

10月：第2回研究会

学年・分野別での実践交流

◆本年度のまとめ

学年・分野別での実践交流を通して，個別最適な学びと協働的な学びの二つを実現するための方策について研究を進めた。どの分野の学習においても，生徒の学ぶ意欲を高められるように教材研究を行っていくことや，生徒の学習を支える環境づくりが大切であると考えることができた。

関市支部

三輪　一博

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月：第1回研究会

授業者：緑ヶ丘中学校　澤　果歩　教諭

1年歴史「古代までの日本」

10月：第2回研究会

授業者：富野中学校　亀井　悠介　教諭

2年歴史「開国と近代日本の歩み」

◆本年度のまとめ

美濃地区大会に向け，歴史分野における事実に関する知識を獲得する授業の新しいモデルの構築を目指した。

単元構造図の見直し，授業後段での「推論」に関わる発問を行うといった手立ては有効であったことについて，積極的に学び合うことができた。

美濃市支部

大西　眞帆

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月：第1回研究会

・人権同和教育講和

・県中社の研究について、実践紹介

9月：第2回研究会（小中合同）

授業者：美濃中学校　高橋　勇樹　教諭

2年地理「中部地方」

◆本年度のまとめ

第1回研究会では、同和問題は引き続き重要な人権課題であり、同和教育を推進していく必要性を改めて認識することができた。第2回研究会では、根拠を明確にすることの大切さを考えることができた。また、価値を認識する授業から進めるべき研究の方向を確認することができた。

郡上市支部

伊地田　泰真

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月：第1回研究会　授業実践交流

10月：第2回研究会

授業者：八幡西中学校　鈴木　則隆　教諭

2年歴史「日本の産業革命」

11月：第3回研究会

授業者：明宝中学校　小椋　志穂　教諭

1年地理「オセアニア州」

◆本年度のまとめ

価値認識を形成する授業につながる事実認識を獲得する授業の在り方について、地理的分野と歴史的分野で実践を行い、獲得させたい価値の内容について議論した。

美濃加茂市・加茂郡支部

福本　航大

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6 月:第1回研究会

授業者:双葉中学校　北川　善斗　教諭

2年地理『近畿地方』

10月:第2回研究会

授業者:八百津中学校　橘　竜太朗　教諭

2年地理『中国・四国地方』

◆本年度のまとめ

研究の視点でもある,『他者との学びを生み出す指導の工夫』について,対話を生み出し広く深い学びにしていくためには,多面的に捉えられる資料や教師の意図的発問や問い返し等が大切であることを,2回の研究授業を通して改めて確認できた。

可児市支部

吉田　賢司

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

～認識を深める工夫を通して,公民としての資質・能力の基礎を育む～

◆本年度の活動内容

6月:第1回研究会

授業者:広陵中学校　今井　寛之　教諭

2 年地理「九州地方」

11 月:第2回研究会

授業者:西可児中学校　青木　裕介　教諭

2年歴史「明治維新」

西可児中学校　渡邉　卓実　教諭

1 年地理「九州地方」

◆本年度のまとめ

生徒の思考を考えた展開や学習活動を仕組むことで,ねらいとする事実認識や価値に迫ることができた。一方で,認識を深めるためには,どの場面でどのような思考をさせたいのかを教師が具体的に思い描き,指導援助の工夫を考えることを大切にしたい。

可児郡支部

松本　和也

◆テーマ

社会認識を広げたり深めたりし,主体的によりよい社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月:教材開発のための企業見学

10月:第1回研究会

授業者:上之郷中学校　松本　和也　教諭

2年地理「特色ある北陸の産業」

◆本年度のまとめ

教科書の資料から地域で行われる農業と工業を読み取るなど学習活動をパターン化することで,見通しをもって課題を解決していくモデルを設定し、主体的な学びができるよう工夫した。

身のまわりにある北陸で生産されたものを紹介することによって学習意欲を高めることができた。

多治見市支部

若尾　一平

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月:第1回研究会

授業者:南ヶ丘中学校　中嶋　英貴　教諭

2年地理「中国・四国地方―交通・通信とともに変化する人々の暮らし」

10月:第2回研究会

授業者:南姫中学校　吉村　匡生　教諭

1年地理「アフリカ州―国際的な支援からの自立に向けて―」

◆本年度のまとめ

どちらの授業にも社会的事象を自分事として考えるための工夫があった。基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用させるための手立ての在り方について学びあうことができた。

土岐市支部

高木　良太

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
6 月：第 1 回研究会
　授業者：土岐津中学校　福田　奈美子　教諭
　１年歴史「古代までの日本」
11月：第 2 回研究会
　授業者：西陵中学校　加藤　耀　教諭
　２年歴史「開国と近代国家の歩み」

◆本年度のまとめ
　2回の授業研究会を通して研究を進めた。特に，生徒の社会認識を広げたり深めたりするために行う「交流・対話」について，いつ，どんな交流を，どのようなテーマで行うのが効果的であるのかについて学び合うことができた。

瑞浪市支部

大竹　里奈

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
6月：第2回部会別研究会
　授業者：日吉小学校　岩島　杏奈　教諭
　3年社会科「はたらく人とわたしたちのくらし」
11月：第3回部会別研究会
　授業者：瑞浪中学校　新　美夏　教諭
　1年地理「アフリカ州」

◆本年度のまとめ
6月…市内の製陶工場を教材化した。単元を通して事実を基に追究し，社会的事象の見方・考え方を働かせて学ぶ手立てについて学んだ。
11月…「指導と評価の計画表」の作成により，生徒の出口の意識を具体的にイメージし，視点を明確にして追究する手立てを学び合えた。

恵那市支部

藤川　拓実

◆テーマ　主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

◆本年度の活動内容
6月：第 1 回研究会
　授業者：明智中学校　山田　真誓　教諭
　2年地理「人口から見た日本の特色」
8月：第 2 回研究会　岐阜地方裁判所　裁判傍聴
11月：第 3 回研究会
　授業者：串原中学校　堀川　雅史　教諭
　3年公民「地方自治と私たち」

◆本年度のまとめ
　身近な地域で起こる社会的事象を取り上げ，それを基に獲得させたい認識をどのようにもたせるのか単元の構成や学習過程，方略に焦点をあて，研究を進めた。
　単元を見据えた際に，出口で獲得させたい認識を得られるように，意図的に「どのように」「なぜ」課題を組み合わせたり，生徒から出た考えから社会的事象の価値を問い，新しい視点をもって，生徒が議論したりすることで，より深い学びを具現することが出来るのだと，学び合うことができた。

中津川市支部

安藤　辰哉

◆テーマ
主体的に社会の形成に参画する力を育てる
社会科学習

◆本年度の活動内容
6月：　第 1 回研究会
　授業者：坂本中学校　菊輪　樹哉
　２年歴史「産業の発達と幕府政治の動き」
10 月：第 2 回研究会（資料研究）
　授業者：坂下中学校　永冶　尚太
　３年公民「個人の尊重と日本国憲法」

◆本年度のまとめ
　どちらを支持するか考察する活動を仕組むことで，仲間の意見を主体的に聞き、学ぶ意欲につながった。また，ロイロノートを活用することで，仲間が選択した内容や変容などが一目で分かり振り返りとつなげられた。今後も，生徒が主体的に学ぶ授業展開の在り方を議論・研究していきたい。

高山市支部

佐々木　宏文

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6 月：第 1 回研究会

授業者：東山中学校　杉浦　大地　教諭

3 年　歴史分野「二度の世界大戦と日本」

11 月：第 2 回研究会

授業者：中山中学校　古田　幹　教諭

2 年　地理分野「中部地方」

◆本年度のまとめ

主体的・対話的で深い学びの実現に向けて，一律一斉型からの授業改善を図り，研究を進めた。2 回の実践とも，スクランブル交流の時間が多く、生徒自身が交流相手を意図的に考え、課題解決へ向け，学ぶ姿があった。教師側がチャレンジすることで、今後も授業改善を図り続けていきたい。

飛騨市支部

林　宏昌

◆テーマ

よりよい社会の実現を目指すこが育つ

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月：第 1 回授業研究会（小中合同）

授業者：神岡中学校　山本　康将　教諭

2年地理「日本の諸地域　近畿地方」

8月：講義・フィールドワーク　飛騨市役所

農林部　農業技術専門官　鍵谷　俊樹　氏

10 月：第 2 回授業研究会（小中合同）

授業者：神岡小学校　渡邉　遥　教諭

5年地理「米づくりのさかんな地域」

◆本年度のまとめ

テーマに即して，地域教材を取り上げることや主体的で対話的な思考を構築する単元にすることで，課題を自分事として捉え，深い学びに繋げることができた。また，小中合同部会として9年間を見通した継続性・一貫性のある実践を進めることができた。

下呂市支部

中島　大志

◆テーマ

主体的に社会の形成に参画する力を育てる

社会科学習

◆本年度の活動内容

6月：第1回研究会

授業者：竹原中学校　桂川　絵里　教諭

2年地理「九州地方」

11月：第2回研究会

授業者：小坂中学校　谷口　弘幸　教諭

2年歴史「開国と近代日本の歩み」

◆本年度のまとめ

単元や単位時間の指導を通して，仲間との学び合いの中で得た学習の成果をどのように個に返すか、またどのようにそれを見届けるのかを研究した。学習を個に返すための手立てや、より仲間と学び合えるような手立てについて、積極的に議論することができた。

北方領土を考える教育者会議

青山中　宮﨑

【活動実績】

・教育者会議の開催（年２回程度，定例的に実施，北方領土問題教育関連事業について県民会議より説明）
・北対協主催事業の実施（標語・キャッチコピーの募集，スピーチコンテストの募集）
・東海・北陸ブロック北方領土問題教育者会議への参加（年１回参加，社会科教員２名程度）
・北方領土を考える東海・北陸ブロック中学生のつどいへの参加（年１回参加，県内地区より輪番で参加校を設定）
・領土問題について授業で取り扱う内容の指導計画を県下の社会科の先生方に HP に掲載し，県下で取り組みを行っている。
・北方領土返還要求運動岐阜県民会議と協働し，来夏に実施される「北方領土を考える東海・北陸ブロック中学生のつどい」及び「東海・北陸ブロック北方領土問題教育者会議」の内容について打ち合わせを重ねている。
・根室高等学校の生徒，根室高等学校教諭，根室市役所職員を招き，北方領土問題について理解するための出前講座を企画し，根尾学園と青山中学校でそれぞれ実施した。

【教育委員会との連携・情報共有を行った活動実績】

令和６年度の代議員会において，北方領土返還要求運動岐阜県民会議の職員の方によって，中学校の社会科の授業で活用できるデジタルコンテンツや北方領土に関する標語・キャッチコピーの募集，スピーチコンテストなどを県下の社会科の先生に広めていただくよう話をしていただいた。

また，北方領土返還要求運動岐阜県民会議と協働し，来夏に実施される「北方領土を考える東海・北陸ブロック中学生のつどい」及び「東海・北陸ブロック北方領土問題教育者会議」の内容について打ち合わせを行う際に同席していただき，教育委員会と連携を図れるようにした。

〔中学生のつどい～視察〕

・A～H グループ　各グループ５名　H のみ６名
・福井県の教員１名＋引率教員１名
・主な展開は３つ　　はじめに自己紹介やアイスブレイク
　①北方領土の返還に向けて，どのような取組が行われているか調べる。
　②北方領土問題について，若い世代に関心を持ってもらうにはどのような取組がよいか考える。
　③北方領土問題を解決するために，中学生の私たちができることは何か考え，グループごとに表現する。

※①②については，各グループに配付されたタブレットを用いて，調べたり考えたりしたことを付箋に書き込み，拡大されたワークシートに貼って集約。KJ 法で行った。
※③については，各グループで様々な取組を考えて発表。
　例：寸劇，替え歌，川柳，T シャツのデザイン，ペットボトルのデザイン，動画，クイズ，給食のメニュー
　③の発表は，各グループ２分という目安だったが，５分を超えるものもあり，時間が超過してしまった。

動画のような形で表現するグループが多かったが，撮影する場所が明示されておらず，やりづらそうな感じであった。また，発表内容については「返還要求」という部分がクローズアップされるため，やや過激と感じられる表現も見られた。平和的な解決を前提に，日本の立場を明確にして主張することの難しさを感じた。ともすると，一方的な批判や安易なナショナリズムの高揚につながってしまう危険性も感じる。

〔次年度について〕

・開催都市が，岐阜市となる場合は，『メディアコスモス』や『うかいミュージアム』など，岐阜市の特色を生かした場所で行うことができないかを検討したい。特に『メディアコスモス』周辺は，岐阜市の観光資源や宿泊施設もある程度集積しており，福井県開催の２日目のような長距離移動して観光視察を行わなくてもよいのではないか。

・『メディアコスモス』中心に行うことで，岐阜市の実習校中心に，岐中社の先生方のお力をお借りるなど，他機関との連携を進めていく。

・『メディアコスモス』で，全体会や各会議スペース，動画撮影場所，書籍資料などが利用できると，事実や根拠に基づいた話ができるのではないか。また，岐阜市教育委員会からの後押しがあれば，タブレットや情報機器の活用についても，見通しが持てるのではないか。

・現代の世相を反映した表現方法を考えた時，Tiktok や youtube などのように，ショート動画の形式で，ある程度時間の制約を設けるとよいのではないか。

・北方領土対策協議会の後押しによって，根室高校の北方領土研究会や北方領土２・３世は，日程によっては岐阜まで来てもらえる可能性がある。直接来てもらうことが難しくても，ZOOM でつないで各グループの話し合いや調査に参加してもらうことも有意義だと考えている。

代議員の先生方へのお願い

(1)社会科研究66号について

古田が代議員の先生の学校へ配送の手配をします。各郡市の先生方に配布してください。

(2)資料集等の選定に関わって

「岐阜県」版掲載資料集…岐阜県中学校社会科研究会編

・地理的分野資料集「ビジュアル地理」…東京法令出版

・公民的分野資料集「ビジュアル公民」…東京法令出版

・歴史的分野資料集「歴史の資料」　…正進社

(3)代議員と授業研究委員の選出について

代議員，各郡市１名　　授業研究委員，各郡市１名（以上）

＊授業研究委員については，希望者があれば2人以上でも結構です。

【注意事項】

選出は，所属長（所属先の校長先生）に必ず相談の上，決定してください。

代議員については年間2回（5月，2月），授業研究委員については年間4～5回（全体会6月，8月，12月＋分野別研究会9月～12月）所属先の学校を離れ，岐中社の会議に参加していただくことになります。「ご本人の承諾のみ」で決定されないよう，各郡市の部員の皆様にくれぐれもご確認ください。

【お願い】

前年度の代議員（皆様）の方が責任をもって，令和7年4月18日（金）までに新代議員と新授業研究委員を報告してください。もし，決定できない場合は決定までの見通し（いつまでに，どの場で決定するのか）をご連絡ください。第1回代議員会は，5月下旬に開催を予定しています。新代議員になられた方には，代議員会への参加について，ご承知おきいただくようお伝えください。

報告は，添付の書式にて「電子メール」で大野中学校大野分校の古田までお願いします。

4月18日（金）までに報告がない郡市につきましては，本年度の代議員の方に令和6年度第1回代議員会の案内状（派遣依頼）をお送りしますので，新規の代議員の方に確実にお渡しくださいますよう，お願いいたします。

大野中学校大野分校　古田　伸二　行き

令和7年度代議員・授業研究委員について（報告）

1　代議員の報告

代議員氏名	
学校名	
電話番号	
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ （必ず記入）	

2　授業研究委員の報告

授業研究委員氏名	
学校名	
電話番号	
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ （必ず記入）	
希望分野 （〇をうつ）	地 理　　歴 史　　公 民 一任する

授業研究委員を二人以上選出して頂ける場合は，この用紙をコピーして2枚目にご記入いただき，報告して下さい。

3　記入責任者

報告郡市名	
氏名	
現所属先	
現所属先電話番号	

年度内に決定している場合は，令和7年3月21日（金）までにご送信願います。

問い合わせ先 ： 古田　伸二 （大野町立大野中学校大野分校）
〒501―0515　揖斐郡大野町桜大門 457-1
TEL:0585－36－1852　　FAX:0585－36－1852
E-mail c40406b@mx.gifu-net.ed.jp